

# ペットの受入体制整備のための



## 検討シート



熊本地震、東日本大震災、新潟中越地震等の災害時には、ペットの受入れについて事前に検討していなかったために、急な対応を迫られ、様々な問題が生じました。



### 熊本地震、東日本大震災、 新潟中越地震で生じた問題



- ペットを連れて行ったけれど、避難所内に入れずトラブルになった。
- 車の中でペットと一緒に生活し、飼い主がエコノミークラス症候群になった。
- 避難所で受入れてもらえたが、飼い主がきちんと世話をせず、他の方に迷惑をかけた。



昔と比べ、より一層ペットが家族の一員と考えられるようになった昨今において、ペットと一緒に避難される方は必ずいます。京都市内で飼育されている犬猫は**推定12万頭**といわれています。

このシートは、それら犬猫をはじめとしたペットの受入れについて、事前に検討するための検討補助シートです。

この検討補助シートを活用し、みんなで話し合って避難所運営マニュアルにペットの受入れについて盛込みましょう。

## 1 ペットの受入スペースは？

▶ あなたの地域には、どれくらいのペットが避難してくるでしょうか？（犬猫とした場合の推計）  
以下の式に地域の世帯数を記入し、避難ペット数の推計を割り出しましょう。

避難所対象世帯数

世帯

犬猫飼育率

× 20% × 10% =

ペット避難割合

ペット避難頭数（推定）

頭

..... A

※ペット避難割合は、仮に10%として推計しています。災害の種類や規模により増減しますので、あくまでペット避難頭数（推定）は目安の頭数としてお考えください。  
※避難の対象となるペットの種類については、避難所ごとに検討が必要です。本シートでは、仮に大多数を占める犬猫を対象としています。

▶ 避難所の屋外にはどれくらいのペット専用スペースを設けることができるでしょうか？

たとえば…

駐輪場



倉庫



更衣室



建物の軒下



テント



他にも、シートを被せれば遊具（うんてい、ジャングルジム、サッカーゴールなど）をテントの代わりとして活用できます。



- ▶ ペットはキャリーケースに入れられて避難します。犬猫のキャリーケースはおよそ1m<sup>2</sup>のスペースに2つほど置くことができます。  
以下の数式にあなたの地域のペット用避難スペースの広さ(m<sup>2</sup>)を記入し、現時点での避難可能なペット数を割り出しましょう。

・駐輪場

$$m^2 \times 2\text{頭} = \boxed{\quad}$$

・倉庫

$$m^2 \times 2\text{頭} = \boxed{\quad}$$

・遊具活用

$$m^2 \times 2\text{頭} = \boxed{\quad}$$

・その他

$$m^2 \times 2\text{頭} = \boxed{\quad}$$



受入頭数合計 =  $\boxed{\quad}$  頭 ⋯ (B)

(B)の数をできるだけ(A)の数に近づけられるように、工夫しましょう。

## 2 ペットの受入ルールは?

- ▶ 避難所のルールを明確に決めておき、飼い主がペットと一緒に避難するにあたっては、そのルールに従うことを条件としましょう。

たとえば…

- 「飼い主の会」を結成し、飼い主同士が協力し合い、ペットの世話を行いましょう。
- 避難所にペットを持ち込む場合は、受付でペットの登録をし、ペットのケージやキャリーケースなどにペット札を貼り付けましょう。
- ペットは、決められた受入スペースで飼育しましょう。
- 飼育に当たっては、原則、飼い主が持参したケージやキャリーケースに入れましょう。
- 給餌は、決められた時間に行いましょう。また、残ったペットフードは必ず始末し、飼育場所を清潔に保ちましょう。
- ペット受入スペースを清潔に保つためにも、排泄やブラッシングは決められた場所で行いましょう。
- ふん尿の不始末やペットの毛の飛散は、臭いやアレルギーの原因となります。受入スペースだけでなく、周辺の清掃も適切に行いましょう。
- ペットの無駄吠えなどは他の避難者の迷惑となります。飼い主が責任を持って対処しましょう。
- 避難所で生活されている方に最大限配慮しましょう。
- トラブルが生じた場合は、飼い主が責任を持って対処しましょう。
- ペットにとっても、避難所での長期生活はストレスとなりますので、可能な限り親戚の方などに預けましょう。
- その他、避難所管理者の指示に従いましょう。



上記ルールに追加



検討を終えたら、避難訓練を実施したり、避難所運営マニュアルに盛込んだりしましょう。